

事 項	花きにおけるアザミウマ類の発生実態		
ね ら い	平成8～10年の調査で花きにおけるアザミウマ類の発生実態の概要が明らかになったので参考に供する。		
指 導 参 考 内 容	<p>1 発生確認種 3か年の調査で、ミカンキイロアザミウマ <i>Frankliniella occidentalis</i>(Per-gande)、ヒラズハナアザミウマ <i>F.intosa</i>(Trybom)、コスモスアザミウマ <i>Mic-rocephalo thripsabdomi nalis</i>(Crawford)、ネギアザミウマ <i>Thrips tabaci</i> Linde-man、クロゲハナアザミウマ <i>T.n igropilosus</i> Uzel、ダイズウスイロアザミウマ <i>T. setosus</i> Moulton、キイロハナアザミウマ <i>T.flavus</i> Schrank及びグラジオラスアザミウマ <i>T.simplex</i> Morisonの8種が確認された。</p> <p>2 発生概況 (1) 調査したほとんどの地点で複数種が混発していた。 (2) 広く発生が認められ、かつ広範な品目で寄生が確認されたのはミカンキイロアザミウマ及びヒラズハナアザミウマであった。侵入害虫であるミカンキイロアザミウマの発生確認地点数がヒラズハナアザミウマを上回ったことは、本種の発生地域が急速に拡大していることを示唆しているものと考えられる。前2種に次いで発生確認点数が多かったのはネギアザミウマ、キイロアザミウマであった。 (3) 寄生密度の高い地点が多かったのは、ミカンキイロアザミウマ及びヒラズハナアザミウマで、ネギアザミウマ、キイロハナアザミウマが次いだ。キクではクロゲハナアザミウマの寄生密度が高い地点がみられた。</p> <p>3 被害発生状況 ○生育期 (1) キクではミカンキイロアザミウマの寄生・加害による心葉の奇形・脱色症状、葉のケロイド状のひきつき症状が各地で確認された。同様の被害はガーベラでも確認された。 (2) カーネーション及びシュッコンカスミソウではミカンキイロアザミウマ、ネギアザミウマによる心葉の奇形・脱色症状等の被害がみられ、カーネーションではネギアザミウマによる被害が主体と考えられた。同様の被害は、ミカンキイロアザミウマの寄生・加害によりトルコギキョウでもみられた。 (3) 葉のかすり症状は、キクではクロゲハナアザミウマの寄生・加害による激しい症状が発生しているほ場が認められた。同様の症状は、ミカンキイロアザミウマ、ネギアザミウマの寄生・加害でもみられたが、比較的軽微であった。 (4) シュッコンカスミソウ及びガーベラではミカンキイロアザミウマの寄生・加害による葉のかすり症状が確認された。 (5) グラジオラスでは葉にグラジオラスアザミウマによるかすり状態の被害が発生しているほ場がみられた。 ○開花期 (1) 多くの品目で花卉のかすり症状や褐変等の汚れが確認され、品質低下の要因になっていた。これらの被害は、ミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマおよびネギアザミウマの寄生・加害に起因すると考えられた。特に、ミカンキイロアザミウマの発生が確認されたほ場では被害程度が高い傾向がみられ、開花できない蕾もみられた。 (2) グラジオラスでは蕾、花にグラジオラスアザミウマによるかすり状の被害が発生しているほ場がみられた。 (3) キクのクロゲハナアザミウマ、シュッコンカスミソウのミカンキイロアザミウマおよびネギアザミウマ、シュッコンカスミソウのヒラズハナアザミウマ、ネギアザミウマおよびキイロハナアザミウマについては、寄生が確認されたが、被害との関係は明かでなかった。</p>		
期待される効果	防除指導上の参考とする。		
利用上の注意事項	種類により防除対応が異なる場合があるので、優占種を確認する。		
担 当	フラワーセンター21あおもり 生産技術部	対 象 地 域	県下全域
発 表 文 献 等	平成8、9、10年度 フラワーセンター21あおもり試験成績概要集		

【根拠となった主要な試験結果】

表1 花きにおけるアザミウマ類の発生実態 (平成8～10年度 フラワーセあおもり)

寄生部位、被害による分類	アザミウマの種類別寄生品目					
	ミカンキイロ	ヒラズハナ	ネギ	コスモス	ダイズウスイロ	キイロハナ
蕾、花での寄生と被害を確認	キク、バラ、カーネーション、トルコギキョウ、シュッコンカスミソウ、シュッコンスターチス、グラジオラス、ダリア、ガーベラ、ツキミソウ、ニチニチソウ、サルビア、デルフィニウム、サクラソウ、デンドロビウム、オンシジウム	キク、バラ、カーネーション、トルコギキョウ、シュッコンカスミソウ、グラジオラス、ダリア、ツキミソウ、ニチニチソウ、サルビア、パンジー	キク、バラ、カーネーション、トルコギキョウ、アリウム			
心葉、葉での寄生と被害を確認	キク、カーネーション、トルコギキョウ、シュッコンカスミソウ、ガーベラ		キク、カーネーション、シュッコンカスミソウ、アリウム			
花あるいは葉で寄生が確認されたが被害については不明	ガザニア、マリーゴールド、アスター、キンセンカ、ケイトウ、ラークスパー、キンギョソウ、ゼラニウム、カラー、カーニソガラム	シュッコンスターチス、ガザニア、マリーゴールド、アスター、ベニバナ、キンセンカ、ヒマワリ、キンギョソウ、テッポウユリ、カラー	シュッコンスターチス	キク、マリーゴールド、オオキンケイギク、ヒマワリ	パンジー、シュッコンスターチス	キク、バラ、ガザニア、マリーゴールド、オオキンケイギク、ベニバナ、テッポウユリ

注) アザミウマ種名の最後の「アザミウマ」を省略
このほか、キク、トルコギキョウでクロゲハナアザミウマ、グラジオラスでグラジオラスアザミウマの発生を確認

表2 花きにおけるアザミウマ類の被害発生状況 (平成8～10年 フラワーセあおもり)

品目名	主要寄生種名	部位別被害症状			
		心葉	葉		花
		奇形脱色等	かすり症状	引きつり奇形等	かすり症状、褐変等
キク	ミカンキイロアザミウマ	◎	○	◎	◎
	ヒラズハナアザミウマ				○
	クロゲハナアザミウマ		◎		△
	ネギアザミウマ		○		○
カーネーション	ミカンキイロアザミウマ	○			◎
	ヒラズハナアザミウマ				○
	ネギアザミウマ	◎		◎	○
シュッコンカスミソウ	ミカンキイロアザミウマ	◎	○	◎	△
	ネギアザミウマ	◎		◎	△
トルコギキョウ	ミカンキイロアザミウマ	◎		◎	○
	ヒラズハナアザミウマ				○
シュッコンスターチス	ミカンキイロアザミウマ				◎
	ヒラズハナアザミウマ				△
	ネギアザミウマ				△
	キイロハナアザミウマ				△
このほかの花き全般	ミカンキイロアザミウマ				◎
	ヒラズハナアザミウマ				○

注) ○：被害が確認されたもの、◎：特に被害が著しいもの、△：被害との関係が明確でないもの